

Face to Face

TICOは徳島発！保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.42 2015年11月号

ザンビア

母子保健プロジェクト

モンボシ・ムワブラ両地域での進捗状況について、報告します。

p.2-3

TICO奨学金（学費）支援

ザンビア募金

皆様からご支援いただいた寄付金の用途について、報告します。

p.4-5

カンボジア便り

公益社団法人セカンドハンドと協力して実施しているカンボジア王国の救急医療技術向上支援について、報告します。

p.6



地域保健ボランティア養成研修修了式のようす（3ページ参照）

チサンバ郡 総合的な農村母子保健

モンボシ先輩、ムワブラ後輩



瀬戸口 千佳（コミュニティ活動専門家／業務調整員）

2014年から始まった本事業は、会報第36号（2014年4月発行）でご紹介した通り、モンボシ地域でこれまで取り組んできた母子保健向上の取り組みをザンビア既存の枠組みの中に定着させていくこと、そしてモンボシでの経験を他の地域（ムワブラ地域）で生かし、母子保健向上に貢献すること、を目的に行われています。

今年からムワブラ地域での活動が本格化し、モンボシとムワブラの両地域にせつせと通う日々ですが、ムワブラ後輩の新人つぷりとモンボシ先輩の貫録つぷりの好対照なこと。地域の保健状況改善には診療所、住民保健員会それぞれの能力強化と合わせて、診療所と住民保健委員会が一つのチームとして連携・協力していくことが不可欠ですが、どこをとってもその経験の違いを見せつけてくれます。

が、もちろんモンボシ先輩だって、最初からそんな状態であったわけではありません。例えば今年の8月に全ての住民保健委員会がこの1年間の活動を振り返りましたが、「ミーティングを毎月開催するようになった」、「ミーティングや出張健診への参加率が改善した」、「住民保健委員会内で協力するようになった」、「住民保健委員会の中で役割分担、定期的な役割交代をするようになった」といった自己分析結果が出てきました。去年の同時期は「活動的でないメンバーが多い」「住民保健委員会の役割を正しく理解していない」「診療所への報告書が提出されていない」という結果（会報第38号（2014年10月発行））だったのですが、「活動計画の策定→実施（進捗確認）→評価→次の活動計画への反映」という一連の流れを積み重ねる中で、組織としての人員配置（特定の個人に依存しすぎない）や定期的な情報共有（会議、報告、相互学習）が習慣化してきた成果と言えます。

彼らの熱心さについつい忘れがちですが、彼らはあくまでも無償で働くボランティア。都合がつけば活動に行くし、都合がつかなければ行きません。でも住民保健委員会が受け皿となる出張健診は地域住民にとって大事なサービスの一つで、〇〇さんの都合がつかないからやらない、というわけにもいきません。だからこそ、



モンボシでの月例活動報告会を見学する
ムワブラ住民保健委員会のメンバーたち

どのボランティアが来ても最低限同じサービスが行えるように、ミーティングや役割分担、定期的な役割交代が重要なのです。

また、「診療所への報告書が提出されていない」という課題ですが、住民保健委員会は毎月、管轄の診療所に活動報告をしなければなりません。実際、去年の4月から3か月間の平均レポート提出率はたったの6%。それが今年同期間では56%にまで改善しています。この月例活動報告会は住民保健員会と診療所の間をつなぐ大事な会議。モンボシの月例活動報告会では、いつも活発な議論が展開され、住民保健委員会のメンバーにとっては診療所スタッフからのアドバイスをもらったり、別の住民保健委員会の活動を聞いて刺激を受けたりする機会となっています。一方のムワブラは会議の重要性は理解しているものの、どう会議を進めればいいのか、いまだに暗中模索状態。「じゃあ、モンボシ先輩のお手並み拝見と行こう」と、9月末にムワブラから総勢10名がモンボシの月例活動報告会を見学に行きました。当日はこちらの期待を大きく上回るすばらしい会議を見せたモンボシ先輩にムワブラ後輩も大変刺激を受けたよう。

見学後すぐの10月頭に、10月から12月の3か月間の活動計画策定会議を実施しましたが、どれほどの奮起ぶりを見せてくれるのか楽しみです。もちろん先輩も後輩には負けてはいられません。モンボシでは、住民保健委員会の核になる地域保健ボランティア（CHW）が新たに12名養成され（3ページ参照）、今後ますます住民保健委員会活動の厚みが増していくこと間違いなしです。

モンボシ先輩



ムワブラ後輩



簡易無床診療所開所年	2009年	2011年
簡易無床診療所スタッフ構成	4名：助産師（所長）1名、看護師1名、環境衛生／NHC担当1名、清掃担当1名	2名：クリニカルオフィサー*（所長）1名、清掃作業員1名（5ページ参照）
村の人口	約1万4000人※郡の公式統計より （2万人※村人からの話より） 約20カ村	約6000人※郡の公式統計より （1万2千人※村人からの話より） 16カ村
住民保健委員会（NHC）の数	10（2015年現在） メンバー総数は約120名 メンバーの平均NHC在籍年数は8.2年	6（2015年現在） メンバー総数は約70名 メンバーの平均NHC在籍年数は5.4年
TICOとのお付き合い	2007年から（約8年間）	2014年から（約2年間）

を支える”地域力”強化事業

村上 久子（事業モニタリング【地域・行政間連携強化】）



村を歩いて集めた情報を基に地図を作成

地域保健ボランティア養成研修

モンボシ地域から住民保健委員会で選ばれた9地区12名のボランティアを対象に、コミュニティ・ヘルス・ワーカー（CHW: Community Health Worker）と呼ばれる地域保健ボランティアを養成する研修（以下、CHW研修）を8月24日から9月25日まで、5週間にわたって実施しました。

研修を受講したのは、長年地域保健ボランティアとして活動しているベテランから住民保健委員会の推薦を受けて今回初めて保健活動について学ぶ新人まで、女性4名を含む計12名の村人たちです。家族と離れ村とは異なる環境のチサンバ町に滞在しながら、4週間の研修を受けた後、モンボシ診療所にて1週間の実習が行われました。講師陣には、モンボシ診療所を管轄するチサンバ郡保健局からCHW研修に長けた講師兼コーディネーターを迎え、コミュニティ活動推進専門スタッフ、経験豊かな医療ケアスタッフが実習を交えた実践的な研修を担当しました。私も研修会場で研修がスムーズに行なわれるよう管理業務を行いながら、農村の暮らし方や水と衛生、出産と育児などについて認識を新たにするとともに貴重な体験となりました。

医師も看護師もいない人里離れた村で住民の健康を守る役割を担う地域保健ボランティアは、住民が困ったときに相談にのってくれる村の「知恵袋」のような存在です。村人に適切な助言をするために必要な保健の知識を一通り身につけているだけでなく、特に容態が急変して死に至ることもある子どもの病気や妊婦の危険兆候の有無を判断できる能力が求められます。ザンビアにおける5歳児未満の一番の死因であるマラリアについては、その症状を正しく理解し迅速に対応できるよう、診療所で使われているRDT



マラリア簡易検査の仕方を学ぶ受講生たち



新生児がBCGの予防接種を受けるのを真剣に観察する受講生たち

というマラリア検査の実施や診断方法について学んでいました。また、陽性患者に対して年齢や体重に応じ薬を処方するところまでを講義、グループでの討議、医療現場の見学、診療所での実習と、時間をかけて学ぶ内容になっていました。その他にも特に子どもに多い下痢、呼吸器疾患、肺炎における危険兆候の有無の確認についての研修が行われました。研修初日と講義の最終日に同様の内容で実施されたテストを比較すると、受講者全員の点数が平均20点以上上がっていました。早朝から夜遅くまで真剣に学んでいた受講生の姿が思い出され、感慨深いものがありました。

CHW研修では上記のような知識や技術の習得だけではなく、その地域が既に持っている知識や技術を活かすこと、問題の優先順位を決めること、そして男女参画の重要性について繰り返し話がありました。住民の声にきちんと耳を傾け、問題の本質を洗い出すことの重要性を気付かせ、住民の総意を反映させるような参加者へのアプローチが特に興味深かったです。講師自身も受講生自らが動くように教える姿勢で、住民の声を吸い上げ全体をまとめていくことを研修で体験させようとしていたことは、特に印象的でした。

お土産を抱え1ヶ月ぶりにそれぞれの村へ戻るミニバスに乗り込んだ受講者の顔は輝いて見えました。一方で、彼らも無給ボランティアであり、良い人材を求めるのは難しい現実があります。さらなる女性の人材活用など模索していきたいと思います。

- 2014年4月から開始されている本事業は、JICA（国際協力機構）から「草の根技術協力事業」として委託を受けて実施しています。

ザンビア募金☆進捗報告

学校校舎修繕プロジェクト



高松市の公益社団法人セカンドハンド*から、教育支援のための資金協力をしていただき、生徒が安全かつ衛生的に学習できる環境を作ること目標に、ムエンバ・プライマリースクール、カムロブエ・コミュニティスクールの校舎修繕を行っています。

*セカンドハンドは、主にカンボジアの教育支援や医療支援などを行っている国際協力団体です。

ムエンバ・プライマリースクール校舎修繕作業完了！！



TICO代表の吉田とともに。後方が建設チーム、前方が7年生



学校は、白地に水色が基本

このポールは地域住民が集めたお金で購入されました

ムエンバ・プライマリースクールで進められていた校舎修繕工事（会報第41号（2015年8月発行））が、遂に完成を迎えました！！セメントミキサーや重機はもちろん無く、梯子や足場も全て地域の資源を使い、地域住民の手で足で作られました。大工は、「早く子どもたちが教室で勉強ができるように」と、自宅の畑仕事を後回しにして作業にあたっていました。さらに、学校を立派に作ろうと、地域住民がカンパをしたお金で屋根を支える柱を購入するなどし、とても丈夫できれいな校舎に生まれ変わりました。

カムロブエ・コミュニティスクール校舎修繕作業進行中！！



カムロブエ・コミュニティスクールの先生と生徒

カムロブエ・コミュニティスクールでは、今年7月から本格的な工事が始まりました。ムエンバ・プライマリースクールと比べると、やや工事の速度がゆっくりですが、少しずつ工事が進み、現在は窓枠上の壁の工事に取り掛かっています。

10月中旬、村で唯一の深井戸が故障してしまうハプニングがありました。セメントを作る上で必要不可欠な水が近場で手に入らず、さらに乾季の終わり頃に差し掛かっていることで近隣の浅井戸も枯れてしまっていました。工事が遅れるだけでなく、生徒や教師の飲み水の確保もしづらい状況でした。村の人々が、あの手この手で修理に取り掛かり、現在は少量ながら水が出るようになりました。

屋根が完成するまでは、教室内で授業をすることができません。そのため、現在は木陰で授業を行っています。雨季までには屋根が完成し、子どもたちがきれいになった校舎で授業を受けられるようになるでしょう。



模様に見えるのは砂。床にセメントを流し込んだ後、水をセメントに吸わせることでセメントにひびが入るのを防ぎます。砂を堤防のようにし、水たまりを作っていました。



ドア枠、窓枠が入り、床の工事が終了（10月26日撮影時）



青空教室のようす

TICO奨学金（学費）支援



柳下 優美（業務調整員）

モンボシセカンダリースクールの8年生、9年生（日本の中学校2、3年生に相当）を対象に学費支援を実施しています。今年から、9年生の授業料が5,400円／年から8,000円／年に値上げされ、新8年生への支援金が不足している状態でした。しかし、会報第39号（2015年1月発行）にて追加支援のお願いをしたところ、なんと、**不足金を大きく上回る、131,620円のご寄付を頂きました！！**ここに、ご支援をいただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

無事に、対象生徒全員に奨学金が行き渡り、8、9年生合わせて30名の奨学生が、元気に学校へ通うことができています。本当にありがとうございました。残りの支援金は、来年の奨学金に充てさ

せていただきます。また、2口以上のご寄付をいただいた支援者の方々には、各生徒からのお礼状を順次お送りしますので、もうしばらくお待ちください。

来年1月からはモンボシセカンダリースクールでは初めて、12年生（日本の高校3年生に相当）が誕生します。校舎の建設、新しい校長室の設置など、教育環境が整備されていくのを肌で感じます。また、今年の5月からは、大人向けの識字教室も開始されました。今後のモンボシセカンダリースクールの発展に、ますます期待が高まります。

8年生



9年生



▲ 奨学金の対象となった生徒たち ▲

チサンバ郡の最果て、ムワプラ地域の診療所を支える若手スタッフを紹介します

名前: シドニー・

チャズラさん

役職: 所長

資格: クリニカルオフィサー*
ムワプラ地域6千人の唯一の医療従事者。予防から治療まで、妊産婦からお年寄りまで幅広く診療します。



名前: ムレンガ・ムワバさん

役職: 清掃作業員

診療所内外の環境整備はもちろん、外来患者の問診や事務もこなして所長を助けています。

2人は、診療所の隣にある電気も水道も車もない家で共同生活をしています。街中で生まれ育った若い彼らにとって、田舎のムワプラ地域は不便で退屈な場所に違いありません。時に不便を嘆きながら、時に退屈を笑い飛ばして、今日もせっせと患者さんの診療にあたっています。

TICOは、2014年度よりムワプラ地区で母子保健事業を開始し、彼らと協力して地域の母子保健の向上に努める活動をしています。（2ページ参照）

*クリニカルオフィサー：医師の絶対数が足りないアフリカでは、ほぼ医師と同様に治療を行えるクリニカルオフィサーという準医師資格があります。

カンボジア便り

渡部 豪（保健医療専門家）



写真は、2015年3月にカンボジアへ渡航した際に撮影したもの。

TICOでは、高松市の公益社団法人セカンドハンドと協力して、カンボジア王国の救急医療技術向上の支援を続けています。

一昨年からJICA（国際協力機構）の委託を受け、高松市による草の根技術協力事業として、公益社団法人セカンドハンドが実施団体となり、TICOでは専門家派遣や研修受け入れ等の技術協力をしています。

本事業では、カンボジア王国スヴァイリエン州等の救急医療の充実を図るため、1) カンボジア国現地での技術指導、2) 日本への研修生招へいによる技術指導、3) 救急資機材の提供とその使用方法の指導、4) カンボジア人指導者の養成、の4つを柱に支援を行っています。

今年5月には、4人の医師を日本へ招へいして救急医療技術等の指導を行いました。高松市消防局での救命処置技術研修・搬送技術

研修、高松市内の医療機関での視察や研修の他、徳島県では模擬診療によるトレーニングと救急疾患画像の読影演習を中心に実施しました。国立コスマック病院のSocheath（ソチース）医師、スヴァイリエン州・スヴァイチープ病院のCharmroeun（チャムロム）医師、スヴァイチュラム病院のDavy（ダヴィー）医師、スヴァイリエン病院のChandu Oudom（チャンドウ）医師の4人は研修中の質問も活発で、熱心に取り組んでいました。

また、8月には帰国後の研修を踏まえた取り組みの状況と今後のアクションプランを発表してもらいました。救急技術における院内での伝達講習はもちろんのこと、院内の掲示物、清潔保持、連絡方法の改善等、具体的な取り組み内容も多く報告されました。最近ではSNS等で院内研修の状況も報告してもらっています。

今後、4人が指導者としてカンボジア王国の救急医療を牽引していくことが期待されます。



▲ エコーの手技を講習しているようす



▲ 模擬診療を指導しているようす

国内活動紹介

第7回 賀川豊彦記念館チャリティウォーキング開催！

11月15日（日）に、徳島県鳴門市にある賀川豊彦記念館にて、チャリティ・ウォーキングが開催されました。会報第36号（2014年4月号）6ページ、支援のカタチでご紹介したNPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会の主催で行われており、イベントの参加費はTICOへ



出発式のようす

寄付してくださっています。当日は、TICO事務局からも出発式に参加させていただきました。

歩くことで健康にも良く、また、国際協力にもつながる。このイベントは、大正の初め神戸の貧民街に住む人たちのために献身的な働きをした賀川豊彦氏の精神に則り、企画されているものです。今年はその7回目、残念ながら予定していた11月14日が雨で中止となりましたが、15日は打って変わって青空が広がる快晴となりました。

TICOを支援してくださる主催者の皆様、参加者の皆様、そして全ての関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

第11回 とくしまNPO・ボランティアフェア出展！

11月1日（日）に、徳島市水際公園にて第11回とくしまNPO・ボランティアフェアが開催され、TICOのブースを出展しました。このフェアは、とくしまNPOボランティアフェア実行委員会が主催となり、徳島県内で活動する社会貢献活動団体がどんな目的をもち、どんな活動を展開しているか、広く県民の皆さんに知ってもらい、参加へのきっかけづくりの場の提供を目的として開催されています。

当日は、徳島県内の様々な団体が趣向を凝らしたステージや物品販売等が行われました。親子連れの参加も多く、子どもたちが気軽に各団体が取り組んでいる仕事や文化活動、社会貢献活動の内

容や重要性を知ることができるよう、一緒に販売を行ったり、実際に活動を体験できたりする取り組みもありました。TICOのブースにおいても高校生が話を聞きに訪れてくれたり、木彫のキリンやザンビアの布などを通じてザンビアや活動内容について、興味を持っていただくきっかけを提供することができました。



TICOの出展ブース



フェアのようす

「MDGsからSDGsへ、国連の次なる目標 人類全体で取り組むべき共通の課題」

TICO代表 吉田 修

2001年から2015年まで国連によってミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）として8つの項目が定められ、世界中が目標達成に向け努力した。MDGsは途上国の悲惨な状況を改善する事に主眼が置かれ、大いに成果を上げた。

そして、次なる目標「持続可能な開発目標」（SDGs：Sustainable Development Goals）*は、17項目169のターゲットを掲げ、より包括的で先進国も含めた全人類が取り組むべき目標となっている。SDGsが達成された世界を想像すると、人類はこれまでになく理想的な新しい文明を勝ち得た次のステージに進化することになる。即ち、

貧困がなくなり、個人が尊重され、平和が守られ、環境が維持され、資源の枯渇も免れ、法の下に正義が守られる。

現実の世界を考えると、この目標があまりにも理想主義的で夢物語のように思えてくる。しかし、持続可能な開発目標を達成できないと、この社会が持続できないという事でもある。持続できないとは、破綻、あるいは破滅、最悪の場合、滅亡という事かもしれない。現実の世界が理想からほど遠いと感じるのは、既に破滅の兆候を我々が感じているからではないか？

破滅を免れるためにはSDGsを達成するしかない。途上国も状況が改善され、先進国も変わらなければならない。Think globally, act locally（地球規模で考えながら、地域で行動する）、個人の生活を変え、消費を変え、地域を

変え、企業を変え、良い政治家を選び、国家を変え、世界を変えよう。

変革は可能だ！！

*我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）

徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。

写真：TICOが支援している事業の進捗状況等について、現地の人々と話をする。今年10月にザンビアへ渡航した際に撮影。

事務局長 福士庸二のつぶやき

パワーシフト

2015年8月、国連加盟国は21世紀の国際社会の目標として貧困削減などを指す「ミレニアム開発目標（MDGs）」に代わり、2016年から2030年までの目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」に合意しました。（7ページ参照）その17項目の目標7に「すべて

の人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する」、目標13に「気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」とあります。

さて、日本では来年4月から「電力小売自由化」＝「電力会社を選べる時代」が始まります。パワーシフトとは、自然エネルギーが中心となった持続可能なエネルギー社会に向けて、電力のあり方を変えていくこと。

自然エネルギーによる電力を選ぶことは、私たちに許された「未来の選択」の貴重な一票ではないでしょうか？



▲ デンキを選べば社会が変わる！
<http://power-shift.org/>

ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方（書き損じハガキ等含む）

江島真也、ヒラオカ薬局、竹岡サヨ子、廣瀬文代、NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会、橋本伸子、堀俊朗、佃千代子、森本賀壽子、井内恵子、花井郁恵、市原民恵、美郷の湯、さくら診療所、合同会社PlanB、田淵幸一郎、杉本尊史、近森由記子、匿名4名

会員を更新された方

上谷遼、瀧浩樹、三田理化工業株式会社、今心株式会社、和田快、阿佐哲也、中島久恵、津田道子、山岡智互、峰尾武、大橋瑞紀、中谷加奈子、松田恵美子、NPO法人太陽と緑の会、篠原幸隆・弘子、久保真一・恵子、神園索己、大塚和子、大多和通夫、池見真由、

井口千陽、凌秦君、山崎恵子、合同会社PlanB、田淵幸一郎・千夏、渡部豪・あかり

新たに入会された方

澤田想野、柏木英里子

● 2015年8月1日分～2015年11月31日
● 順不同、敬称略

*TICOの会員になってください！

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員 個人	¥12,000
学生	¥6,000
団体	¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いします。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名（フリガナ）・電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。下記までお問い合わせ下さい。

*ご寄付をお待ちしています。

郵便振替 — 01640-6-37649（加入者名）TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店（店番号344）

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ）ティコ

指定寄付 — 該当する項目を振替用紙の通信欄にお書き添えください。また、銀行振込の場合は、該当する項目をお知らせください。

♣ ザンビア募金（ザンビア）

♣ 学費支援（ガバ）

クレジットカード — ホームページをご覧ください。

募金箱 — さくら診療所（徳島県吉野川市）に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこから買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

書き損じハガキ — 事務局までお送りください。



TICOニュースレター Face to Face 第42号
2015年11月発行 発行人：吉田 修
編集：近森 由記子

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271（平日 9:30～18:30）

メール：info@tico.or.jp / ホームページ：www.tico.or.jp

フェイスブック：www.facebook.com/ticohq

ブログ：blog.goo.ne.jp/tico_blog